碧南市公共施設等総合管理計画市民会議（第３回）　会議録

１　日時

令和８年１１月１４日（土）　午前１０時から１２時０５分まで

２　場所

碧南市役所　２階　大会議室

３　出席者

(1) 市民会議委員　１６名（委員数２１名）

(2) 傍聴者　１名

(3) 事務局及び所管課　職員５名

４　議事次第

(1) 事務局からの報告（資料修正・取材について）

(2) あいさつ（生田部長）

(3) 前回の振り返り（小林先生）

(4) グループワーク（自己紹介・意見交換）

(5) 各グループによる発表及び質疑応答

(6) まとめ・閉会

５　市民会議の要旨

(1) 事務局報告・あいさつ

＜事務局＞

・配布資料「令和 7 年度維持管理費施設別一覧（修正版）」の差し替え依頼（人件費の二重計算を修正）。

・キャッチネットワークによる取材の案内。

＜生田部長＞

本日が全３回の市民会議の最終回。本計画は１０年前に策定されたが、今回は「削減方針の考え方」を大きく見直すための議論。会議終了後のアンケート結果を踏まえ、市の案が適当か判断したい。

(2) 前回の振り返りと宿題の確認

＜小林先生＞

前回議論の整理：施設利用者がいる以上、円滑な統廃合は困難だが「納得感」が重要。コスト抑制と機能維持の両立には民間活力の導入も一案。

宿題について：どうすれば大方の市民の理解を得ることができるか。
提示された「５つの基本方針」で進めて良いか。追加すべきことはないか。

(3) 意見交換等（発表要旨）

■ D グループ

理解を得る方法：利用者の声を聴き、結論を押し付けない。

行政も柔軟に再考する姿勢（上から目線ではない対応）が必要。

意見：削減ありきでは町の魅力が削がれる。もっと分かりやすい説明が必要。２０年後のビジョンが見えない。
今ある資源を有効活用し、人を呼び込む仕掛けを作るべき。
「市民が主人公」

■ C グループ

理解を得る方法:将来のビジョン(この計画で碧南市が同良くなるか)を打ち出す。
不便になる点もオープンにし、交通手段などのフォロー策をセットで示す。

基本方針：概ね賛成。
ただし、削減だけでなく「重点的な充実強化」など、希望が持てる前向きな文言を追加すべき。

その他：小中学校の統廃合や、公園の防災拠点化などの有効活用も検討に値する。

■ B グループ

理解を得る方法:利用率や運営費の数字を明確に示し、統廃合の判断基準(物差し)を設ける。また、利用者の意見を聞く。
広報紙だけでなく SNS（LINE、YouTube 等）を活用した積極的な情報配信が必要。

意見：区民館の運営費・会計報告の透明性を高めるべき。計画の概要版が難しいため、より分かりやすい資料（概要版の概要版）を要望。

■ A グループ

理解を得る方法：財政赤字の現状を「自分事」として捉えてもらうため、市民１人当たりの負担額を提示する。
全体説明会を開催し、その様子を動画公開する。
市民が理解できる形で発信する必要がある。

基本方針:概ね賛成だが、「市民のより良い暮らしのための削減」であることを目的として明記すべき。不便に対してどのように対策するか示す。

意見：現状が既に「失敗（施設の作りすぎ)」であると認め、不具合が出ることを恐れず、まずはスピード感を持ってやってみることが大切。

(4) まとめ

＜小林先生＞

事例紹介：桑名市の小中一貫校統合の事例。当初は十分な根回しができず反発も強かったが、「まずはやってみる」と動き出した。結果として、新しい校舎や環境に対して利用者から喜びの声が上がり、それが一つの成功モデル

となった。

「縮充」の考え方：総量を減らしつつも、中身を濃縮して充実させる。一方的な削減ではなく、魅力的な施設に生まれ変わらせる視点が重要。

＜生田部長＞

ピーク時に比べ税収が４０～５０億円減少しており、身の丈に合った施設量への見直しは不可避。１０%削減で財政が回るわけではないという意見もあった。削減だけでなく、企業の投資を呼び込む努力を続け、将来に向けた明るい材料も示していきたい。